

イ. 群落構造

植生調査を実施した群落及び植生調査地点の概要を表 5.2.8.9 に示す。また、各植生調査地点の植生の概要について以下に示す。

表 5.2.8.9 植生調査地点の概要

区分	凡例		植生調査地点 No.	調査実施時期		
				春季	夏季	秋季
植生区分	草本群落	ヤナギタデ群落	8			○
		コセンダングサ群落	1	○	○	○
		メヒシバ-エノコログサ群落	2			○
		ヨシ群落	3	○	○	○
			9	○	○	○
			10	○	○	○
		オギ群落	4	○		○
			11	○	○	○
			12			○
		マコモ群落	13			○
		ミクリ群落	—			
		ススキ群落	14			○
		休耕田雑草群落	5			○
			6			○
	7			○	○	
	15				○	
	木本群落	メダケ群落	16	○	○	○
		クズ群落	17			○
			18	○	○	○
		エノキ群落	19	○	○	○
竹林 (マダケ)		20	○	○	○	
幹線水路内 植生	湿生草本群落	23			○	
		24			○	
	沈水植物群落	—				
土地利用	土地利用	植栽樹種群	—			
		果樹園	—			
		畑地	—			
		水田	—			
		人工草地	21			○
		公園・グラウンド	—			
		住宅・構造物	—			
		社寺林・緑の多い住宅地	22		○	○
		道路・新幹線	—			
	開放水面	開放水面	—			
合計			24 地点	10 地点	11 地点	24 地点

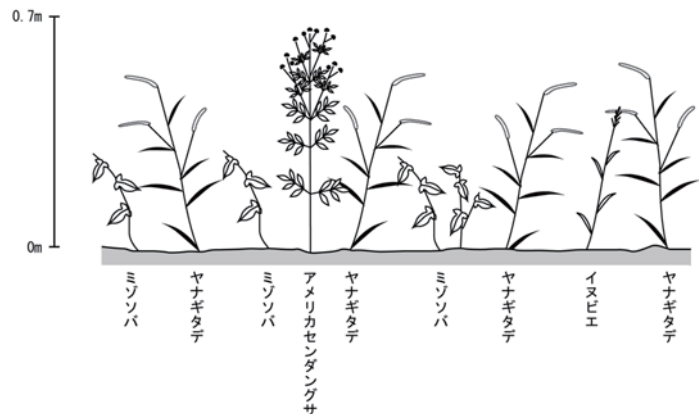
■ヤナギタデ群落 (St. 8)

一年草であるヤナギタデが優占する群落で、調査範囲内においては、相模川の砂礫地に成立していた。

【St.8】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川に架かる東海道新幹線の鉄橋下に形成された砂礫地に成立したヤナギタデ群落である。

秋季調査時は、群落高は 0.7m、植被率は 70%で、ヤナギタデが優占していた。このほか、ミゾソバ、イヌビエ等が生育していた。全ての出現種は、湿地に生育する種で構成されていた。



St. 8の模式断面図 (秋季調査)

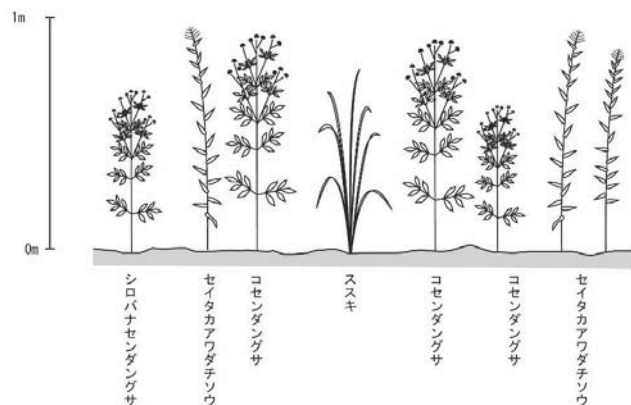
■コセンダングサ群落 (St. 1)

路傍雑草を主体とした草本が生育する群落で、造成後の裸地的環境に成立していた。調査範囲内においては、局所的にみられた。

【St. 1】

調査地点は、実施区域の市街地に隣接する造成跡地に成立した草本群落である。

秋季調査時は、群落高は 1.0m、植被率は 60%で、外来種であるコセンダングサが優占していた。このほか、セイタカアワダチソウ、シロバナセンダングサ等の外来種がみられた。



St. 1の模式断面 (秋季調査)

なお、春季調査時は、群落高が 0.4m、植被率 60%でノゲシやスギナ等の生育が確認された。また、夏季調査時は、群落高が 0.7m、植被率は 60%でセイタカアワダチソウ、ネズミムギ、マツヨイグサ等の外来種の生育が目立っていた。

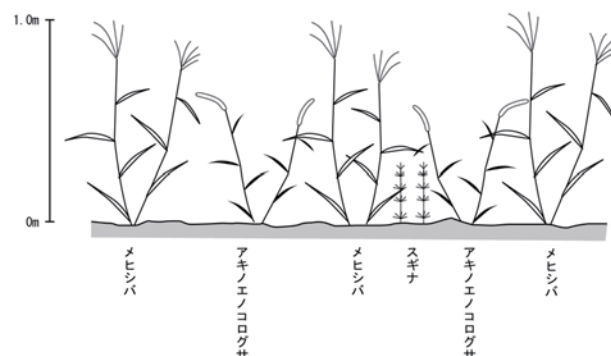
■メヒシバエノコログサ群落 (St. 2)

イネ科の一年草であるメヒシバやエノコログサが優占する群落で、やや乾いた場所に成立していた。調査範囲内においては、各所に散在していた。

【St. 2】

調査地点は、実施区域の中央部の畑地に隣接する場所に成立した草本群落である。

群落高は 1.0m、植被率は 70%で、メヒシバが優占していた。このほか、アキノエノコログサ、スギナ等が生育していた。



St. 2の模式断面 (秋季調査)

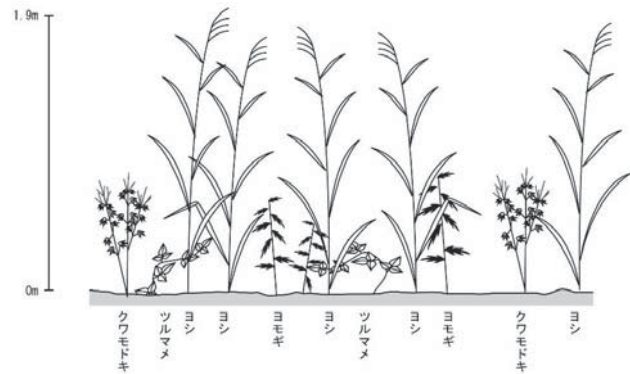
■ヨシ群落 (St. 3、St. 9、St. 10)

高茎湿生草本であるヨシが優占する群落で、比較的湿った場所に成立していた。調査範囲においては、実施区域及びその周辺地域の水田地帯の数ヶ所に分布していた。

【St. 3】

調査地点は、実施区域の水田地帯に成立したヨシ群落である。

秋季調査時は、群落高は 1.9m、植被率は 90%でヨシが密生し、下層にはツルマメ、クワモドキ、ヨモギ等が生育していた。なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して群落高や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。

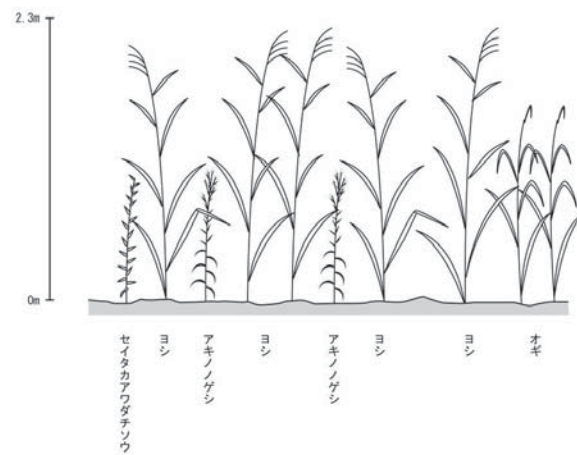


St. 3の模式断面 (秋季調査)

【St. 9】

調査地点は、実施区域の周辺地域の水田地帯に成立したヨシ群落である。

秋季調査時は、群落高は 2.3m、植被率は 90%でヨシが優占し、このほかにはオギやアキノノゲシ、セイタカアワダチソウ等が生育していた。なお、春季調査時は群落高が 0.5m、植被率 80%でヨシが優占し、夏季調査時は群落高が 2.0m、植被率 100%でヨシが優占していた。年間を通してみると、春季調査時では草刈後の高さの低い群落が、徐々に発達していく様子がみられた。

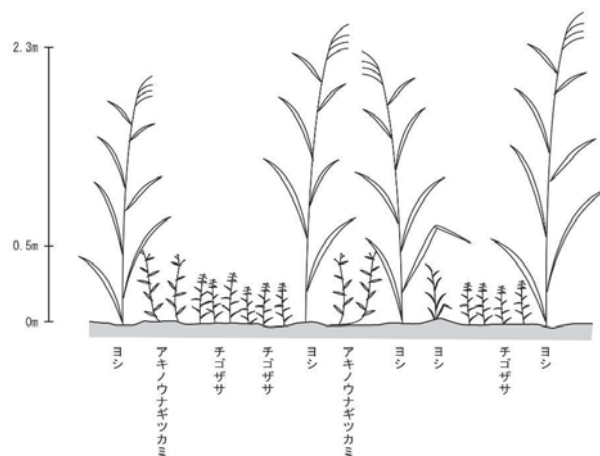


St. 9の模式断面 (秋季調査)

【St.10】

調査地点は、実施区域の周辺地域の水田地帯に成立したヨシ群落である。

秋季調査時は、群落高は 2.3mであるが、群落構造は上層と下層に分かれており、上層にはヨシが植被率 65%で優占し、下層には草丈の低いチゴザサが植被率 85%で密生していた。なお、春季調査時は、群落高 0.4m、植被率 70%で外来種のセイタカアワダチソウが優占する群落であったが、夏季調査時は群落高が 2.0m、植被率 65%でヨシが優占する群落に遷移していた。



St. 10の模式断面 (秋季調査)

以上のことから、春季にセイタカアワダチソウが優占する群落に、その後ヨシが進入し、ヨシ群落に発達していく様子がみられた。

■オギ群落 (St. 4、St. 11、St. 12)

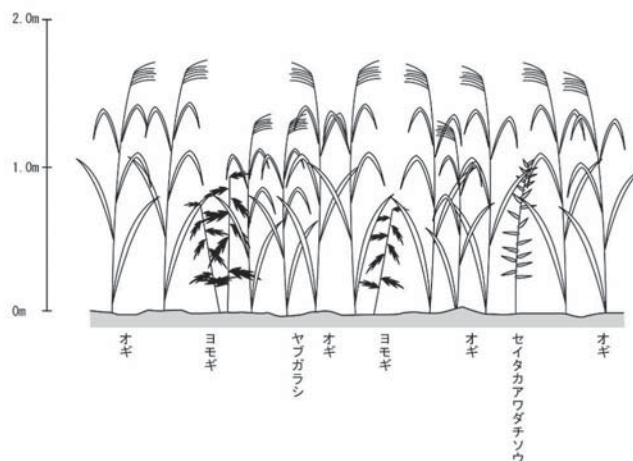
高茎草本のオギが優占する群落で、ヨシが生育する立地より、やや乾いた場所に成立していた。調査範囲においては、実施区域及びその周辺地域の水田地帯で小規模な群落が数箇所に分布していたほか、相模川沿いには面的に広がりをもった群落、笠張川の堤防法面には河川に沿って群落が成立していた。

【St. 4】

調査地点は、実施区域に成立したオギ群落である。

秋季調査時は、群落高は 1.7m、植被率は 100%であった。オギが高被率で優占していたために、ほかにはヨモギ、セイタカアワダチソウ等が数種類みられる程度であった。

なお、春季調査時は群落高 1.0m、植被率 100%でオギが優占した群落が形成されていたが、夏季調査直前に草刈が実施されていた。その後、秋季調査までに再びオギが群落を形成するまで生長したと考えられる。



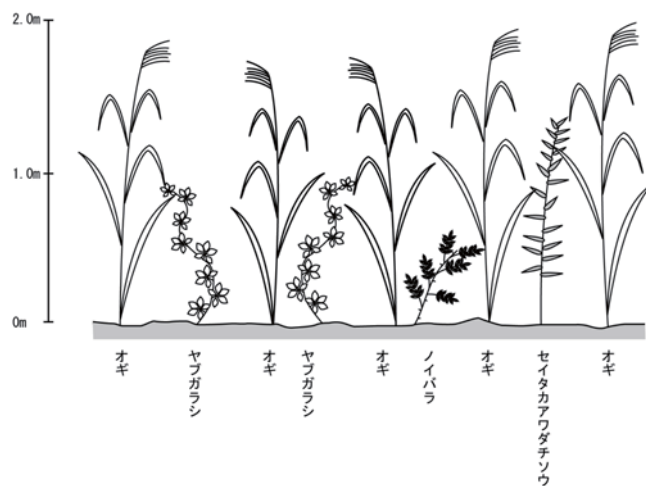
St. 4の模式断面 (秋季調査)

【St.11】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に成立したオギ群落である。

秋季調査時は、群落高は 2.0m、植被率は 80%でオギが優占しており、その下層にはノイバラ、ヤブガラシ、セイタカアワダチソウ等が生育していた。

なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して群落高や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。

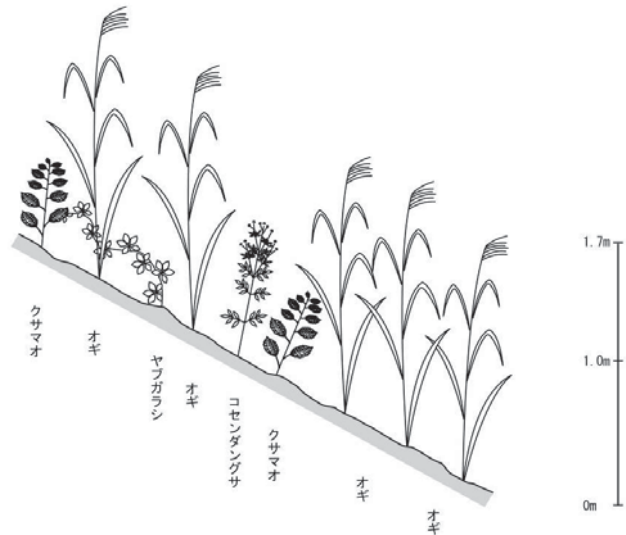


St. 11の模式断面 (秋季調査)

【St.12】

調査地点は、実施区域の周辺地域の笠張川の堤防法面に帯状に成立したオギ群落である。

群落高は 1.7m、被度は 85%で、上層はオギが優占し、下層はクサマオ、コセンダングサ、ヤブガラシ等が生育していた。



St. 12 の模式断面 (秋季調査)

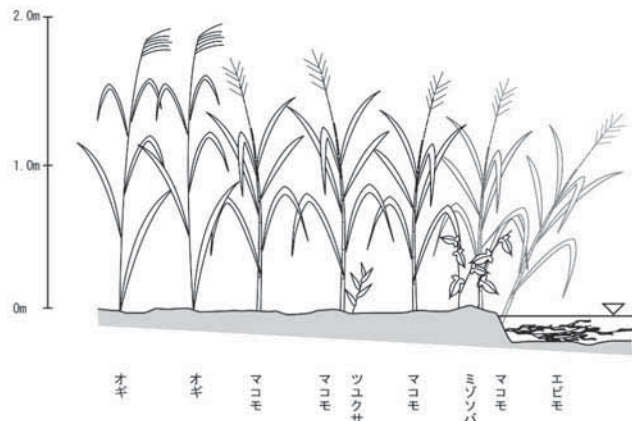
■マコモ群落 (St. 13)

抽水植物のマコモが優占する群落で、調査範囲においては、実施区域周辺地域の西側を流れる笠張川の水際部分で数ヶ所の分布がみられた。

【St.13】

調査地点は、笠張川の水際に成立したマコモ群落で、マコモは陸域から水域への移行帯に生育していた。

群落高は 2.0m、植被率は 75%で、マコモのほかには、オギやツユクサ、ミゾソバが生育し、水中には沈水植物であるエビモが生育していた。



St. 13 の模式断面 (秋季調査)

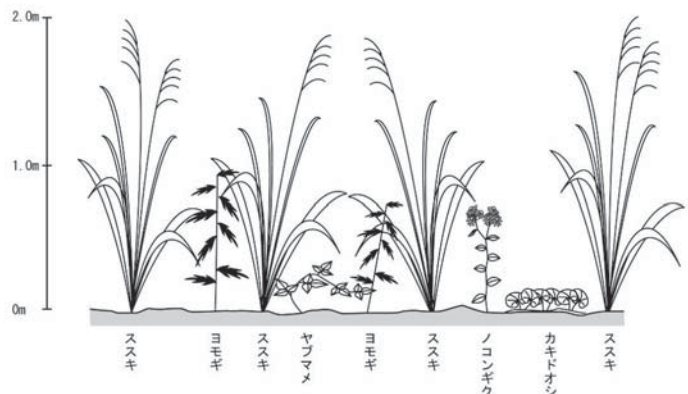
■ススキ群落 (St. 14)

乾いた立地に生育する高茎草本の群落で、ススキが優先する。調査範囲においては、東海道新幹線の法面に帯状に成立していたほかは、小規模な群落がわずかにみられる程度であった。

【St.14】

調査地点は、実施区域の周辺地域に位置する東海道新幹線の線路付近の水田脇に成立したススキ群落である。

群落高は 2.0m、植被率は 100%で成立していた。ススキは大きな株に生長しており、下層にはヨモギ、ノコンギク、ヤブマメ、カキドオシ等が生育していた。



St. 14 の模式断面 (秋季調査)

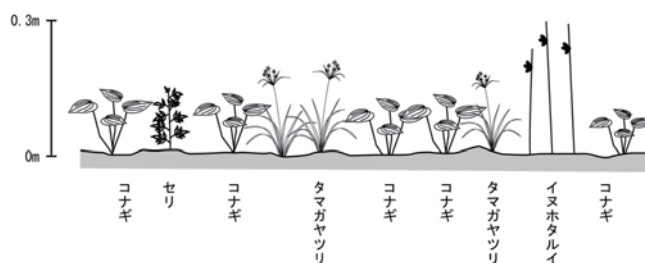
■休耕田雑草群落 (St. 5、St. 6、St. 7、St. 15)

水田雑草等の各種湿生植物が生育する群落で、耕作放棄、あるいは休耕中の水田に成立していた。調査範囲においては、実施区域及びその周辺地域の水田地帯に、数ヶ所の分布が確認された。

【St. 5】

調査地点は、実施区域西側の休耕田に成立した休耕田雑草群落である。

群落高は0.3m、植被率は85%で、水田雑草であるコナギが優占していた。ほかには、タマガヤツリやイヌホタルイ、セリといった水田内でよくみられる種類が生育していた。

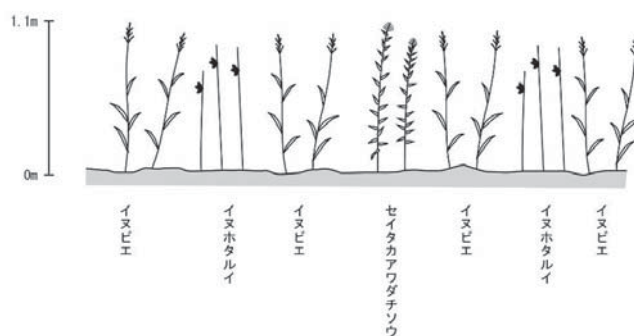


St. 5の模式断面 (秋季調査)

【St. 6】

調査地点は、実施区域西側の休耕田に成立した休耕田雑草群落である。

群落高は1.1m、植被率は80%で、一年草のイヌビエが優占していた。St. 5よりやや乾いた場所に成立しており、ほかにはイヌホタルイやセイタカアワダチソウ等が生育していた。



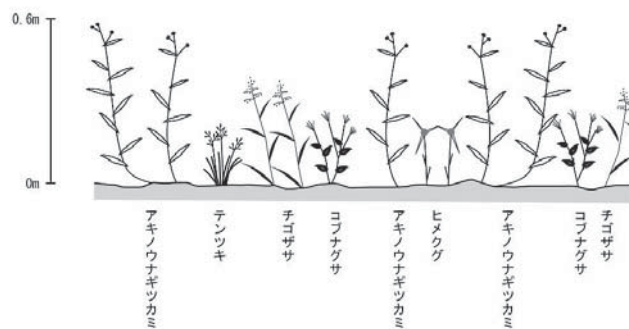
St. 6の模式断面 (秋季調査)

【St. 7】

調査地点は、実施区域中央部の水田地帯に成立した休耕田雑草群落である。

秋季調査時は、群落高は0.6m、植被率は80%で、一年草のアキノウナギツカミが優占していた。このほか、チゴザサやコブナグサ、ヒメクグ、テンツキ等の湿った場所に生育する種類がみられた。

なお、夏季調査時は、群落高0.2m、植被率90%で、アキノウナギツカミが優占していた。

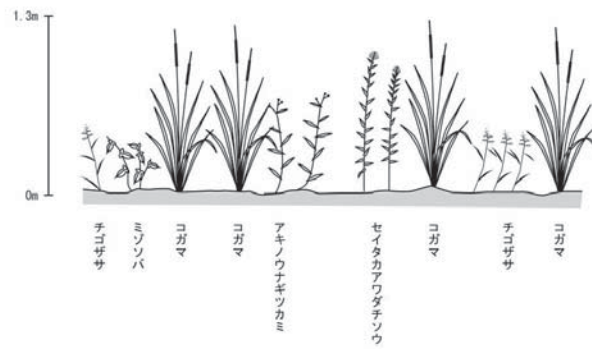


St. 7の模式断面 (秋季調査)

【St.15】

調査地点は、実施区域周辺地域の南側にみられる休耕中や放棄された水田に成立した休耕田雑草群落である。

群落高は 1.3m、植被率は 80%で、多年生草本のコガマが優占していた。また、コガマ以外では、チゴザサの被度が比較的高く、ほかにはセイタカアワダチソウやミゾソバ、アキノウナギツカミ等が生育していた。



St. 15 の模式断面 (秋季調査)

■メダケ群落 (St. 16)

メダケにより構成される群落で、調査範囲においては実施区域周辺地域の東側を流れる相模川の河川敷に成立していた。竹林 (メダケ) に隣接するように相模川に沿って小規模な群落が形成されていた。

【St.16】

調査地点は、相模川の河川敷に成立したメダケ群落である。

秋季調査時は、群落高は 4.0m、植被率は 100%でメダケが優占していた。また、メダケを覆うように、つる植物のクズやヤブガラシが生育していた。このほか、ヤイトバナやクワモドキ等が生育していた。

なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して階層ごとの植被率や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。



St. 16 の模式断面 (秋季調査)

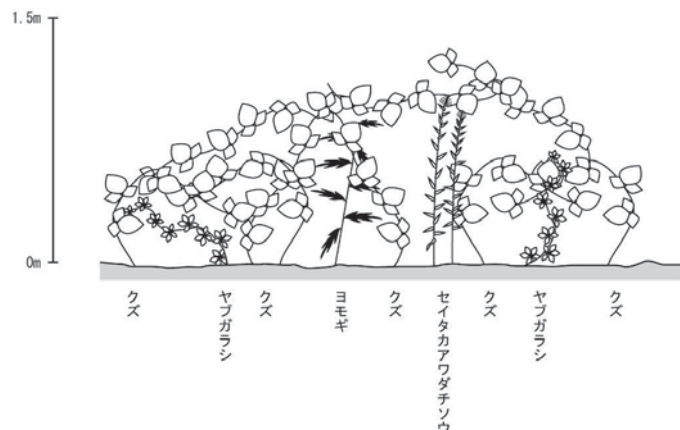
■クズ群落 (St. 17、St. 18)

長年放棄された草地等につる植物のクズが進入し、成立した群落である。調査範囲内においては、所々に散見され、また相模川の河川敷では、まとまった群落が形成されていた。

【St.17】

調査地点は、実施区域周辺地域の北側の水田地帯に成立したクズ群落である。

群落高は 1.5m、植被率は 100%で、セイタカアワダチソウやヨモギ等の上部をクズが覆うように密生していた。



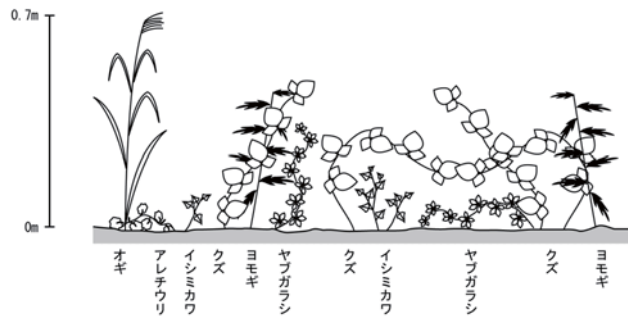
St. 17 の模式断面 (秋季調査)

【St.18】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に成立したクズ群落である。

秋季調査時は、群落高は 0.7m、植被率は 100%で、クズが優占していた。このほか、ヤブガラシやイシミカワ、アレチウリといったつる植物のほか、オギ、ヨモギ等が生育していた。

なお、春季調査時は、群落高 1.0m、植被率 90%で外来種であるネズミムギが優占する人工草地であったが、夏季調査時には、群落高 1.5m、植被率 80%でクズやヤブガラシといったつる植物が優占する群落に変化している様子がみられた。



St. 18 の模式断面（秋季調査）

■エノキ群落 (St. 19)

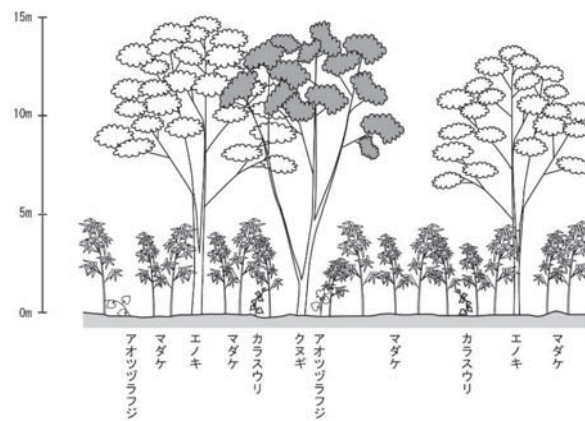
落葉広葉樹林であるエノキとクヌギで構成される群落である。調査範囲においては、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に小規模な群落が成立しており、また調査範囲で唯一のまとまった樹林環境となっていた。

【St.19】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に成立したエノキ群落である。

秋季調査時は、群落高は 15mであり、高木層にエノキ、クヌギが樹冠を形成していた。また、低木層にはマダケが密生していた。そのため、草本層の種類数、植被率ともに少ない状態にあり、つる植物のアオツラフジ、カラスウリ等がわずかにみられる程度であった。

なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して階層ごとの植被率や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。



St. 19 の模式断面（秋季調査）

■竹林（マダケ）（St. 20）

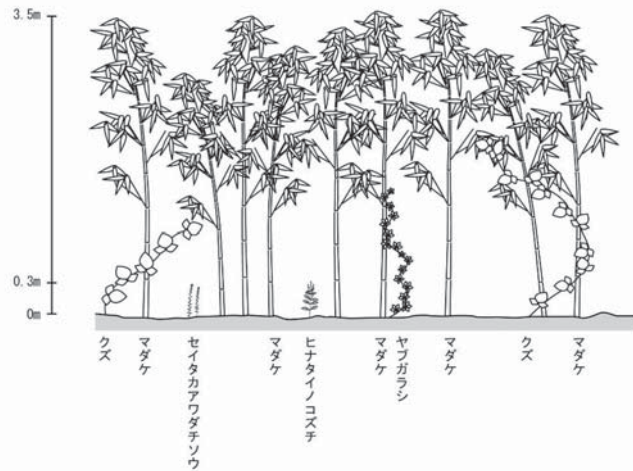
竹林由来のマダケにより構成される群落である。調査範囲においては、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に小規模な群落が成立していた。

【St.20】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川の河川敷に成立した群落である。

秋季調査時は、群落高 3.5m、植被率 80%でマダケが優占し、低木層にはマダケのほかにヤブガラシ、クズ等が生育していた。草本層は植被率が5%と低く、ヒナタイノコズチ、セイタカアワダチソウ等がわずかにみられる程度であった。

なお、春季調査及び夏季調査では、秋季調査と比較して階層ごとの植被率や種構成に若干の変化はみられるが、年間を通して大きな変化はみられなかった。



St. 20 の模式断面（秋季調査）

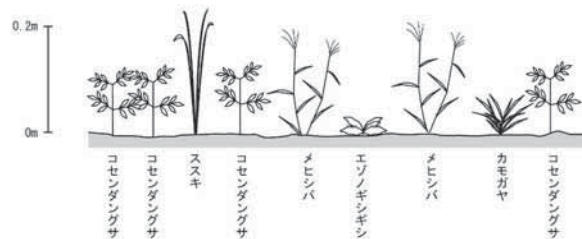
■人工草地（St. 21）

相模川沿いの堤防周辺等、定期的な草刈が実施された場所に成立した群落である。調査範囲においては、相模川沿いの堤防法面、河川敷のグランド周辺等の人為的な撈乱が起こる場所に広く分布していた。

【St.21】

調査地点は、実施区域の周辺地域の相模川堤防法面に成立した低茎草本群落である。

群落高は 0.2m、植被率は 70%でコセングサ、メヒシバ、カモガヤ、ススキ等の多数の種類が確認された。除草作業が実施された後であり、生育していた植物は低く刈り込まれている状態であった。



St. 21 の模式断面（秋季調査）

■社寺林・緑の多い住宅地 (St. 22)

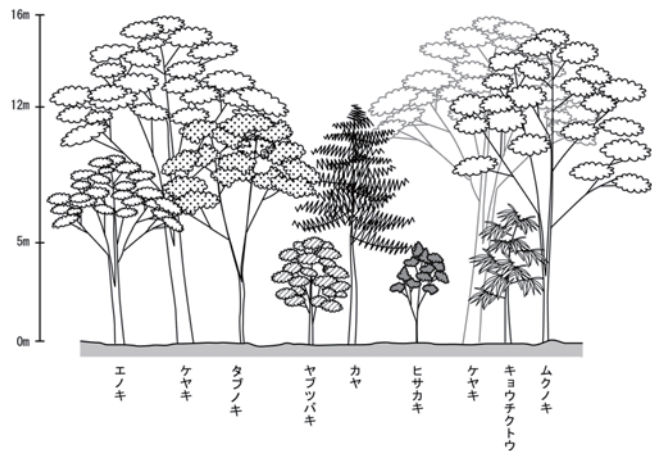
大きな庭木や生垣等緑被率が高い住宅や、大径木がある神社・寺院等に成立した小規模な樹林環境で、調査範囲の多くを占める市街地のなかにみられた。

【St.22】

調査地点は、実施区域の周辺地域にある寄木神社の社寺林である。

秋季調査時は、高木層に樹高 16m のケヤキが優占していた。このほか、亜高木層にカヤ、タブノキ、エノキ等、低木層にヒサカキ、キョウチクトウ、ヤブツバキ等が生育していた。林床は掃き清められているために、草本層の被度は低い状態にあった。

なお、夏季調査時も、秋季調査時と同様の状況が認められた。



St. 22 の模式断面 (秋季調査)

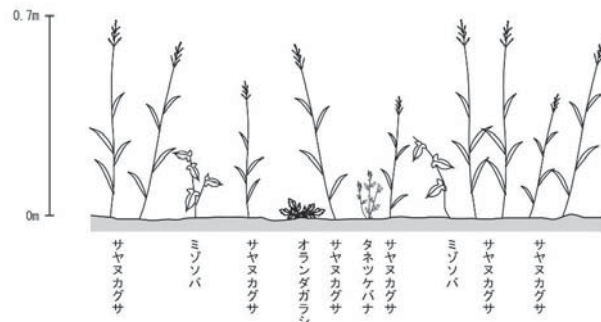
■幹線水路内植生—湿生草本群落— (St. 23、St. 24)

水路内に土砂が堆積した場所に生育する湿生植物や沈水植物により成立した群落である。調査範囲においては、排水路等の比較的規模の大きな水路に分布していた。

【St.23】

調査地点は、実施区域東側の農耕地内を流れる幹線水路内に成立した湿生草本群落である。

群落高は 0.7m、被度は 100% でサヤヌカグサが優占していた。このほか、ミゾソバ、オランダガラシ、タネツケバナ等の湿った場所に生育する植物が生育していた。

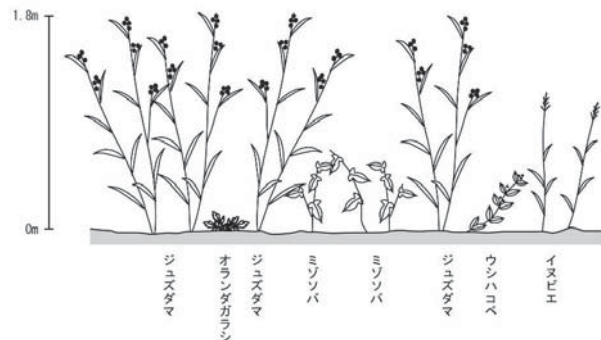


St. 23 の模式断面 (秋季調査)

【St.24】

調査地点は、実施区域周辺地域の南側の市街地を流れる幹線水路内に成立した湿生草本群落である。

群落高は 1.8m、被度は 75% でジュズダマが優占していた。このほか、ミゾソバ、オランダガラシ、イヌビエ、ウシハコベ等の生育していた。



St. 24 の模式断面 (秋季調査)

ウ. 潜在自然植生の状況

潜在自然植生とその成立環境は表 5.2.8.10 に、潜在自然植生群落別優占面積は表 5.2.8.11 に示すとおりである。また、潜在自然植生を図 5.2.8.6 に示す。

潜在自然植生とは、「生態学事典」（昭和 58 年、沼田真編）によると、「今、人間の影響を一切停止したとき、その立地に生じると判定される自然植生」と定義されている。

「神奈川県潜在自然植生」（昭和 51 年、神奈川県教育委員会）及び現地調査によると、調査範囲の水田地帯及び相模川・笠張川沿いの低地以外の陸域は、イノデ-タブノキ群集・ケヤキ亜群集が成立すると考えられ、調査範囲の 60%以上を占めていた。

調査範囲の休耕田雑草群落及び水田として利用されている立地は、ハンノキ群落が成立すると考えられ、調査範囲の 30%以上を占めていた。そのほかの群落としては、調査範囲の西側を流れる笠張川に成立するマコモ群落やミクリ群落、調査範囲の幹線水路内に散在する湿生草本群落や沈水植物群落は、セリ-クサヨシ群集が成立すると考えられる。

また、相模川沿いの低地を中心に、調査範囲に散在するヤナギタデ群落、ヨシ群落、オギ群落は、オギ-ヨシ群団が成立すると考えられる。

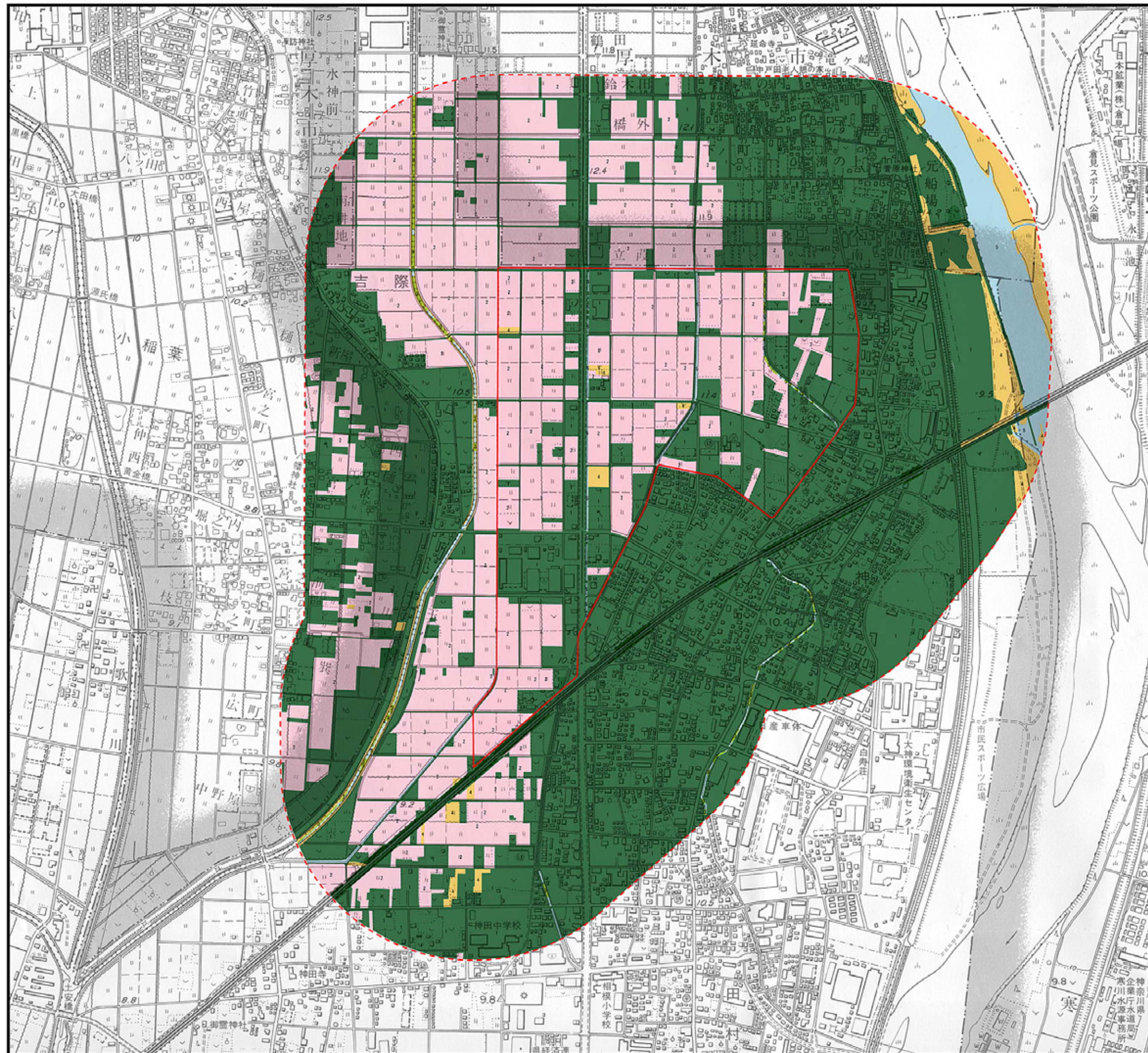
表 5.2.8.10 潜在自然植生と成立環境

潜在自然植生		成立環境	該当する現存植生
1	イノデ-タブノキ群集・ケヤキ亜群集	河川の沖積地で、土壌中の空気含有量が高い、適湿地	コセンダングサ群落、メヒシバ-エノコログサ群落、ススキ群落、メダケ群落、クズ群落、エノキ群落、竹林（マダケ）、植栽樹種群、果樹園、畑地、人工草地、公園・グラウンド、住宅・構造物、社寺林・緑の多い住宅地、道路・新幹線
2	ハンノキ群落	河川が形成した沖積地のうち、特に後背低湿地	休耕田雑草群落、水田
3	セリ-クサヨシ群集	河辺の粘土質の堆積地	マコモ群落、ミクリ群落、湿生草本群落、沈水植物群落
4	オギ-ヨシ群団	河畔沖積低地	ヤナギタデ群落、ヨシ群落、オギ群落

表 5.2.8.11 潜在自然植生群落別優占面積

潜在自然植生	調査範囲		実施区域		実施区域の周辺地域	
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
1 イノデ-タブ群集・ケヤキ亜群集	221.15	62.77	30.27	44.00	190.88	67.22
2 ハンノキ群落	110.39	31.33	36.97	53.73	73.42	26.03
3 セリ-クサヨシ群集、ツルヨシ群集	0.82	0.23	0.11	0.16	0.71	0.25
4 オギ-ヨシ群団	9.43	2.68	0.56	0.82	8.87	3.12
5 開放水面	10.50	2.98	0.89	1.29	9.61	3.38
合計	352.29	100	68.80	100	283.49	100

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計値が一致しない場合がある。



凡例

- 実施区域
- 調査範囲

1	イノデータノキ群集・ケヤキ亜群集
2	ハンノキ群集
3	セリークサヨシ群集
4	オギーヨシ群団
5	開放水面



Scale=1:10,000



図5.2.8.6
潜在自然植生図